

地域観光プランニング カレッジ成果 簡易報告

1) 各班の提案の要点と最終講評会地元参加者の感想・意見

各班の提案（詳細は当日の別紙パネル）	地元の感想
<p><b>A 班）萩焼と生きる～空間と生活に萩焼を取り込む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常や特別の日に萩焼のある暮らし・時間を体感できる場を提案。</li> <li>● 深川萩焼の若手作陶家の、陶器作りに限らない、家具づくりや空間プロデュース能力、芸術性に着目。</li> <li>● 湯本温泉の中に各若手作陶家の世界観を表現する萩焼を活かしたギャラリー空間、アート空間をつくる。共演・競演のかたちも。</li> <li>● 有志の旅館が企画・出資者。旅館内の深川萩焼コンセプト客室の改修への展開を想定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 崇雄氏（若手作陶家）：あまりショールーム的だと（自分は）行かない。行ってみたい仕組みが大事では。がっかりさせないレベルの空間づくりが重要</li> <li>● 正紘氏（若手作陶家）：空き家をつかったアート空間のスケッチに興味があり、やってみたい（瀬戸内芸術祭の例）。イメージを喚起し、café 音ではそれを販売へなど連携させるなど。</li> <li>● 就一氏（玉仙閣）：コンセプト客室の案は検討中であった。やってみたい。</li> </ul>
<p><b>B 班）深川萩焼の里物語ツアー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 深川萩焼の芸術性が発揮されている高額価格帯（20-50 万円など）の購買層を新たに開拓することを目的</li> <li>● 窯元の作陶家の美意識が現れた集落の環境や茶室（片倉新兵衛窯）を最大限活かしたツアーとランチ</li> <li>● すでに深川萩焼のファンである人が知人を誘う展開をイメージ</li> <li>● 高価格帯層の旅館客をターゲット。旅館の外でのアクティビティを増やすことも意図。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正紘氏：窯の顧客から知人を紹介してもらうことは嫌がられるだろう。できる部分は既にやっている。新規事業としてこのリストの公開は考えづらい。旅館の顧客（大谷山荘など）から萩焼ファンを開拓なら良いと思う。</li> <li>● 正紘氏：茶会を開催するには相当の準備がいる。アテンドのレベルも相当高くする必要があるが、その人手がいない。これをどうする？</li> <li>● 白石氏：大谷山荘レベルのクオリティが出せるかが大事になる。</li> <li>● 正紘氏：昔は百貨店の外商としてこうしたツアーがあったが、商売っ気の高いツアーはもう受けない。</li> <li>● 昌代氏（玉仙閣）：宿泊費より高いツアーは難しい。富裕層向け雑誌とのコラボした企画ならありえるかも</li> <li>● 香代氏（大谷山荘）：茶室は気軽に貸してとはいえない。</li> <li>● 香代氏：街に出ていきたい、自然を感じるプログラムをやりたい。→B 班は湯本地区でそれを検討していたので、追加パネル提案へ</li> <li>● 和弘氏（大谷山荘）：興味ある旅館客を三ノ瀬に案内することは実施中。坂倉さんの茶室は、これを機にぜひ！</li> </ul>

<p>B 班-追加提案) 長門湯本プロムナードカフェ ～音信川を感じる素敵な朝ライフ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 崇雄氏: 朝食を外で食べる、その際に萩焼を使うということはアイデアとしいい。お客ニーズに合わせていく容易はある。</li> </ul>
<p>C 班) 湯本の未来を創る学び場「サロン de 大寧寺」 ～深川萩焼五窯作陶家とエース仲居による観光の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光客に深川萩の魅力を伝える担い手として旅館のエース仲居さんを想定し萩焼ソムリエを育成する。</li> <li>● その方々に、5 窯元の個性や作陶家の人柄までを体感的に学び合うサロンをつくる。</li> <li>● 歴史的に、三ノ瀬と湯本温泉がつながる鍵である大寧寺をサロンの中心舞台と設定</li> <li>● 旅館と大寧寺の檀家や賛助者有志が企画者・サポーターになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 香代氏 (大谷山荘): 従業員教育として、すでに萩焼のことは学ばせているので、その延長で考えられるかも。</li> <li>● 荒川氏 (まち協会長): 大寧寺はまちの要。(サロン運営のコストをどこが見るかが課題というなら) 檀家や賛助会と一緒に、ぜひやってみたい。</li> <li>● 白石氏) 大寧寺の連携は今後必要。大寧寺にお金が入る仕組み、大寧寺の環境が維持される仕組みとすると良い。</li> <li>● 白石氏) ここにしかできない景色を扱うのはとてもよい。カントリーキッチンの上田さんとコラボしたらいい。</li> <li>● 崇雄氏) 作陶家のメリットとして (地域の中での) 認知度向上はとてもよい</li> <li>● 崇雄氏) 萩焼の伝え方、もてなし、サロンの場など、café 音を作るときに考えてきたことと一致することが多いのでその価値が間違っていなかったとほっとした。</li> </ul>

- 木村: どれもコンセプトはいいが、社会実験の提案となると迫力がなくなっていると感じた。

## 2) 川原コメント

- ・正紘氏が興味を示してくれた、A 班の萩焼作陶家の世界観を活かしたアート空間は、MP のコアコンテンツのひとつである萩焼の、湯本地区における「café&pottery 音」の次の展開として、実現する意義があると考え。場所の提供者と改修費用を負担できる事業者の存在が重要である。例えば、竹林の階段沿いの「住よ志荘寮」で、玉仙閣による事業とすることについて、就一氏に打診してみたい。(懇親会で話したときには、興味を持ってくれた。)
- ・湯本の観光まちづくりにおいて、現在の取り組みが住民の皆さんにも具体的メリットが実感できることが重要である。C 班の大寧寺に焦点を当てる案は、荒川会長や岡田氏といった住民の方が大変興味を持ってくれたことは心に留めたい。大寧寺を舞台に、大寧寺の環境の維持管理にもつながる活動・事業が生まれると良い。
- ・B 班の内容は、大谷山荘の事業としてブラッシュアップしていくのがよさそうである。和弘氏も興味を持ってくれた。

## 3) 今後の展開

- ・具体的な担い手として想定されている人のニーズを確認しつつ、またデザイン会議として推進の合意が得られれば、首都大として次年度作業として検討していきたい。

以上